

吉野復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成29年5月20日(土)16:40~16:50 於)いわき市役所)

1. 発言要旨

こんにちは。今日は福島県5区、私の選挙区のところに参りました。

まず、葛尾村に行ってまいりました。村長さんとお会いしまして、復興拠点の整備を依頼されました。そして、来年の4月に学校を再開するというので、いろいろなアイデアを頂きました。

まず、もう立派な学校ができているので、その見学会をして、こんなすばらしい学校なら来年4月にこの学校に入ってみたいとか、あと通学バス、何だかんだ1時間、片道かかるそうなんですけれども、1時間黙ってバスに乗っているんじゃないかと、テレビを使って、例えば英語の勉強をしたり、通学の時間を使ってでも勉強して楽しい気持ちにしたいというような、本当に御努力を感じてまいりました。

また、営農の再開なんです。葛尾村、一番の優良農地が仮置場になっておりますので、いくら営農再開をしたいと言っても、仮置場のものを中間貯蔵施設に持っていかないと営農再開ができないという、正に至極当然だと思いますけれども、そういうお話も伺ってきました。

次、川内村に行ってまいりました。これは川内小学校の運動会、本当にいいお天気で運動会に行ってきました。そして川内保育園、約25名ぐらいのお子さんがあるんですけども、合同の運動会でした。ですから、おじいちゃん、おばあちゃんも含めると、村民運動会といってもいいぐらい、川内村挙げての一大運動会でございます。そこで私は御挨拶をさせていただきました。森まさこ参議院議員も同行しておりましたので、御挨拶をしてまいりました。

ここでは人員の派遣の継続を要望されました。また、川内村は林業の村でございますので、林業の再生などの要望もございました。

次に富岡町に行ってまいりました。ここはまず、帰還困難区域と解除された地域が道路一つ隔てた中で制限区域が解除されたわけですけれども、困難区域がもうすぐ隣でありますので線量が高いわけであります。

富岡モデルという形で、困難区域をとりあえず30メートル除染し、30メートル除染で線量が下がらなかつたら、また10メートル延ばして40メートルをやるといって、それは通称、富岡モデルという名前を呼んでいて、解除した地域には必ず線量を低くして解除の効果があるように、人が帰ってきてても安心できるような、

そんな地域をつくっていききたいというのが町長の一番の要望でございました。

次に大熊町の大川原地区、復興拠点も含めて大川原地区の再開発、新しいまちづくり、そして役場の予定地に行ってきたんですけれども、多くの新しいまちづくりの、そういうプランを拝見、目で見てまいりました。

次に浪江町でございます。ここは水素製造装置を県で浪江町につくりたいということで、それが今、国に上がってきているわけですけれども、国としても浪江町に水素製造装置をつくることをお願いしたいというものです。

今、浪江町には「まち・なみ・まるしえ」という形で商店街があるんですけれども、生鮮食料やドラッグストア等々はまだございません。そういう買い物をする施設を何とか今、町が誘致しておりますので、そこへの支援をしてほしいということでございます。

最後に、ここ、いわき市にやってまいりました。15項目という、本当にたくさんの要望がございました。でも、きちんとまとめて復興関係、そして創生関係という形で分かりやすい要望を頂いたわけでありまして。

特に、もう既に配分されている一括交付金、これが使い勝手が悪いものですから、使い勝手をよくしてほしいという、そういう要望もございました。

私の方からは、こうこうこういう理由でだめなんですよというのではなく、知恵を出して一緒に考えて、こうすれば使えますよという、被災者に向き合った目線で取り組むように汗を流すということでございます。

また、今つくっております共立病院でも財政支援、そして医師確保の要望もございました。

また、東京オリンピック・パラリンピックでの要望もございまして、聖火リレー、被災地を必ず通ってほしいということで要望もございました。

過日、丸川大臣に復興五輪という形で面会をさせていただき、全世界のオリンピックのアスリート、パラリンピックのアスリートに、ここまで復興したんだというところを見せるためにも、被災地の聖火リレー、これは本当に大事なものだということを訴えてまいりました。

また、野球・ソフトについては福島県での開催が決定したわけがありますので、その御礼も申し述べてきたところです。

いわき市の方からは、侍ジャパンの直前合宿をこのいわきでやりたいということで、ここで合宿して、そして本番の福島市に乗り込むという要望もございましたので、その辺のところも復興庁と

してバックアップをしていきたい、このように考えているところ
でございます。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 被災地を回られて、各市町村によってそれぞれ復興の度合いと
か事情とか違うと思うんですが、要望も沢山受けたということな
んですが、特に回って印象深かったものは何でしょうか。

(答) 30年4月にそれぞれ学校を再開するというので、先程、葛
尾村の例もお話ししたように、皆さん、いかに30年4月に多く
の子供たちが帰ってくるかというのが、ある意味で共通課題とし
て、私は受け止めました。

ですから、いい事例を水平展開して、村々、町々によって違うで
しょうけれども、共通的なところは、例えば通学バス等々でビデ
オ教育を使ったものとか、そういうものは各町、各村共通事項で
ございますので取り入れてほしいな、こんな思いをしたところで
す。

(問) 今日首長さん何人かとお会いされて、要望書の方を受けてお
話もされたかと思うんですが、その要望を受けた中で、これは実
現しますというような形でお返事されたようなものはございま
すか。今日の中で。

(答) これから役所に帰ってやらねばならないですから、検討しま
すというお答えです。

特に学校再開については復興庁と町村一体となってやりたいと、
町・村・復興庁一体となって復興の加速化に努めていきたいとい
う御挨拶をさせていただきました。

(以 上)